令和6年度

宇奈月ダムと出し平ダムの連携排砂等実施のお知らせ

平素は、黒部川の治水事業および発電事業に対し、格別のご理解賜り厚く御礼申し上げます。

黒部川は全国でも有数の流出土砂の多い河川であることから、出し平ダム（関西電力）では、6月1日から8月31日までの間において、所定の流量以上の出水時にダムに堆積した土砂を下流に排出するため、宇奈月ダム（国土交通省）と「連携排砂」を実施しております。

連携排砂実施中は、川の水位が大きく変化することや、実施後も取水停止による用水の断水が続きますので、ご注意・ご協力のほどお願いいたします。

なお、排砂実施に関する情報は、黒部河川事務所ホームページやX（旧Twitter）等で配信予定です。

連携排砂・通砂実施中の情報について

連携排砂・通砂の情報は、みらーれテレビ行政コミュニティチャンネル(091ch)上にテロップにて表示のほか、X（旧 Twitter）と黒部河川事務所ホームページ、携帯サイトよりお知らせします。

愛本えん堤の情報（合口取水停止、再開）は、ホームページ、X（旧 Twitter）でもお知らせします。

みらーれテレビ(091ch)テロップ

出水のため、愛本からの取水が停止されます。

▼

連携排砂（通砂）の実施中です。

▼

愛本からの取水は停止中です。

▼

まもなく愛本からの取水が再開されます。

▼

愛本からの取水が再開されました。

以上の内容について、テロップでお知らせする予定です。

X(旧 Twitter)

黒部川連携排砂 X
https://twitter.com/kurobe_haisya

黒部河川事務所ホームページ

排砂・通砂・ダム関連情報
黒部河川事務所
http://www.hrr.mlit.go.jp/kurobe/

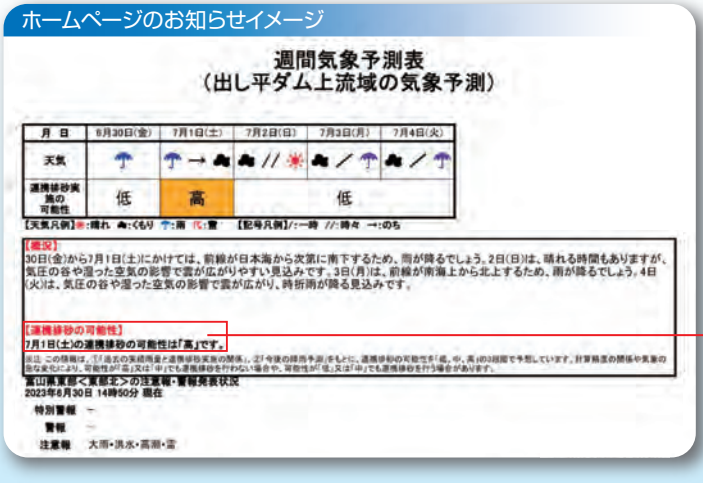
黒部の防災情報携帯サイト

黒部河川事務所
「黒部の防災情報携帯サイト」
https://cgi.hrr.milt.go.jp/cgi-bin/kurobe/i/index.cgi

連携排砂の予報

6月～8月末までの間、毎週火曜日と金曜日※に連携排砂等の予報（実施の可能性が「高、中、低」）を黒部河川事務所ホームページ、X（旧 Twitter）にてお知らせします。※火曜日と金曜日が休日の場合は、直近の平日に実施します。

ホームページのお知らせイメージ



Xのお知らせイメージ

◀ ホームページと同じ画面へ

連携排砂、連携通砂及び細砂通過放流の可能性「高、中、低」をお知らせします。

自然な土砂の流れを目指して

黒部川とダムとがより自然な形で共存するには、ダムの機能を維持し、下流域の河床低下や海岸侵食など自然環境への影響を少なくすることを総合的に考慮し、ダムに流入する土砂をより自然な形で通過させることが重要となっています。

・・・ 連携排砂・通砂についての Q&A ・・・

Q. なぜ排砂・通砂は必要なのでしょうか?

A. ダムにより土砂問題を解決するために必要と考えています。

ダム上流の大崩壊地(小黒部谷)

黒部川での土砂に関する問題点

- 黒部川流域は地質がもろく降水量も多いため、大量の土砂が発生し、黒部川下流に流出します。この量は、1年間で東京ドーム1杯分（約124万立方メートル）以上にのぼります。
- ダムが無くても土砂は大量に流れてきます。もしダムにたまった土砂を下流に流さなかった場合、ダム湖が土砂で満杯になってしまい、ダムが有する機能〔治水・利水（発電等）〕が低下します。
  特に治水機能は、大雨などで発生した洪水を調節する機能であることから、排砂は下流の安全を守るため重要です。
  また、土砂を流さないと下流河道の河床が低下し、護岸や橋梁の基礎が浮き上がるなど、被災しやすい状態となります。
- 山から流れてくる土砂は進行する海岸浸食に対し砂浜の回復に寄与します。

梅雨前線出水状況(愛本地先)

ダムにたまった土砂を定期的に、ダム下流へ流す必要があります。

Q. 初期の頃の排砂・通砂と現在のやり方ではどう違うの?

A. 排砂による影響を小さくするために、以下のように実施しています。

河川での採水状況

- 平成３年には、出し平ダム完成から６年間ため込んだために変質した土砂を流したため、下流に大きな影響を与えました。しかし、現在の方法は、土砂が変質する前に排砂・通砂を毎年実施し、排砂による環境の影響が小さくなるよう配慮しています。
- 平成３年は12月の川の水が少ない時期に行いましたが、現在は水量が多く濁っている出水時に排砂を実施しています。
- 自然に近い排砂を目指し、排砂方法については専門家のご指導をいただき地域のご理解を得ながら実施しています。
- 令和２年度から、より自然に近い土砂動態を目指し「宇奈月ダム先行操作」など更なる排砂方法の工夫に取組んでいます。
- １年を通してダム貯水池、河川、海域などの広範囲にわたり環境調査を行い、影響を把握・監視しています。また、データはすべてホームページにて公開しています。

黒部川扇状地より日本海を望む

連携排砂って何？

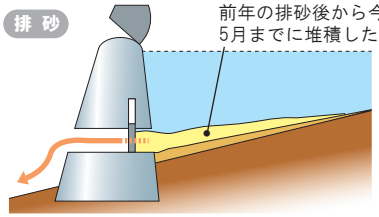
連携排砂とは、宇奈月ダム(国土交通省)とその7㎞上流に位置する出し平ダム(関西電力)で排砂実施期間(6月～8月)に連携して排砂を行うことです。

排砂中の出し平ダム（R2）

「排砂」と「通砂」の違いとは？

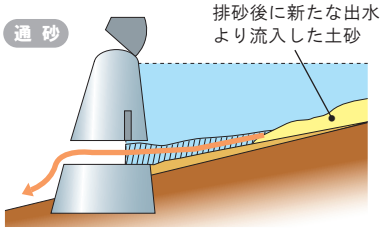
「排砂」とは・・・

ダム湖内にたまった土砂を出水時に排出させることをいい、前年の排砂または通砂実施後に堆積した土砂をその年最初に排出することをいいます。



「通砂」とは・・・

排砂実施後に、大きな出水が発生したときに上流から流れ込む土砂をダムにためることなく、下流へ通過させることをいいます。



排砂中の宇奈月ダム（R2）

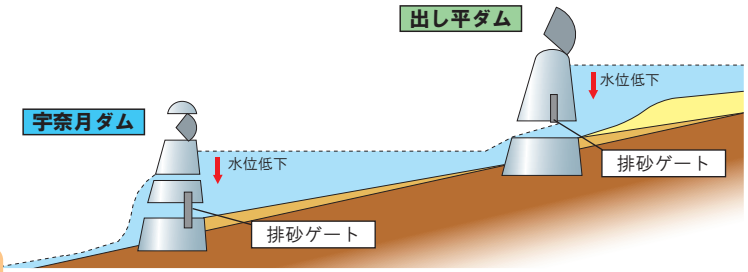
連携排砂・通砂の方法！

ステップ 1

ダムの水位を下げます

ダム湖内を川の流れにするためにダム湖内の水位を下げます。

排砂・通砂のための準備です

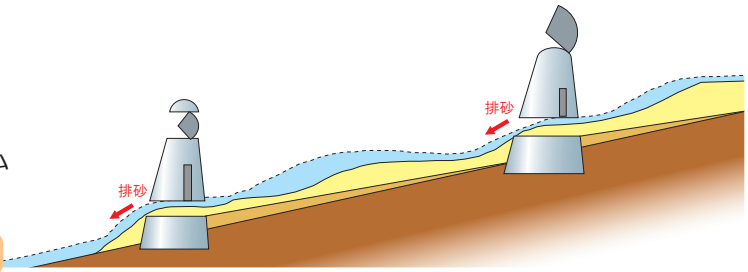


ステップ 2

土砂を排出します

川の流れる力を使い、土砂と水をダム下流に一定の時間排出します。

この状態が排砂・通砂です。

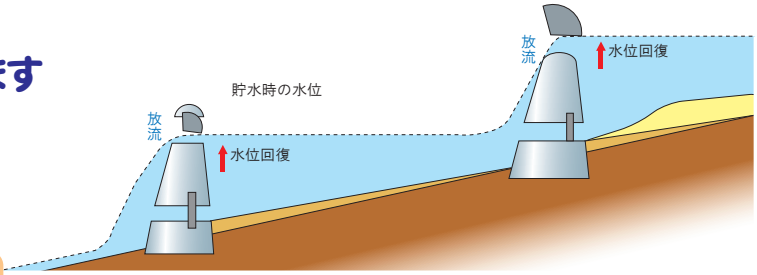


ステップ 3

最後にもう一度水を流します

ダム下流の川にたまった細かい土砂を洗い流すために、ダム湖内の水位を回復させ上流からの流水を一定の時間、下流に流します。

排砂・通砂の影響を小さくします。



連携排砂（れんけいはいしゃ）

6月1日から8月31日までの間に発生する**最初の出水**※1**の時**に、
出し平ダムに堆積している**土砂を流下させる**予定です。

※1　台風や前線によって大雨が降ると、その水が川に流れ込み川の水が急激に増えます。このような現象を出水といいます。

連携通砂（れんけいつうしゃ）

連携排砂を実施した後から8月31日までの間に発生する**出水の都度、**
出し平ダム上流から**新たに流れてくる土砂を通過させる**予定です。

細砂通過放流（さいさつうかほうりゅう）

翌年度排砂時の環境負荷を軽減することを目的に、細かな土砂を下流へ通過させるとともにダム湖底付近に水の流れをつくり底質の変質を抑制します。

土砂変質進行抑制策（どしゃへんしつしんこうよくせいさく）

排砂の実施条件を満足する出水・洪水の発生がない場合、9月1日～2日の間に実施します。排砂ゲートからの一定量の放流により堆砂面上に水の流れを作り底質の変質を抑制します

スピーカー・サイレンによる警報

ダムや発電所からの放流により河川が増水する場合はスピーカー、サイレンによる警報でお知らせしております。連携排砂、連携通砂中等は、ダムや発電所から放流いたしますので、同様に警報でお知らせします。

警報が聞こえたら、河川やその付近にいる場合は、安全な場所に避難してください。

（スピーカー、サイレンの他、警報車でお知らせすることもあります。）

放流警報装置（スピーカー）

警　報　車

連携排砂に関する環境調査結果や各種情報は黒部河川事務所ホームページでご覧いただけます。

お問合せ先

国土交通省 北陸地方整備局 黒部河川事務所
TEL.（0765）52-1122（代表）　http://www.hrr.mlit.go.jp/kurobe/

関西電力㈱ 北陸支社
TEL.（076）432-6111（代表）